

航空利用の概況

長崎空港利用者数の推移

(単位:人)

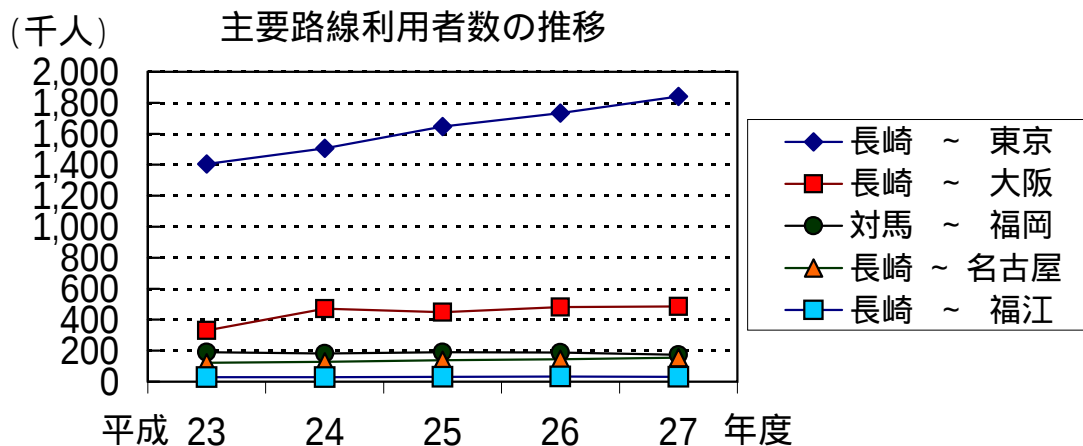
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
国 内 線	2,392,236	2,645,607	2,769,292	2,878,834	3,001,915
国 際 (定 期) 線	15,500	29,045	32,692	72,751	39,382
チャーター便	8,228	2,373	10,058	3,301	10,134
乳 幼 児	48,287	50,056	51,012	53,811	56,187
計	2,464,251	2,727,081	2,863,054	3,008,697	3,107,618

主要路線利用者数の推移

(単位:人)

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
長 崎 ～ 東 京	1,404,471	1,506,327	1,646,025	1,732,597	1,841,370
長 崎 ～ 大 阪	331,241	470,513	448,273	481,429	486,135
対 馬 ～ 福 岡	189,961	182,226	190,346	187,813	173,591
長 崎 ～ 名 古 屋	121,422	127,983	138,930	144,555	155,208
長 崎 ～ 福 江	29,571	28,834	31,452	32,260	30,466

注) 路線別利用者数に乳幼児は含まない。



本県における航空の歴史は、昭和35年4月、大村空港を国管理空港（旧第二種空港）として供用開始したことに始まり、昭和50年には世界初の海上空港「長崎空港」として生まれ変わり、昭和55年には滑走路が2,500mから3,000mに延長された。県内には長崎空港のほか、五島つばき空港、壱岐空港、対馬やまねこ空港の4空港に定期便が就航しており、全国の主要都市を始め本土と離島とを結ぶ航空網を形成している。

長崎空港は本県の空の玄関として、国内線は東京、大阪（伊丹、神戸、関西）、名古屋（中部）、沖縄など9路線36便、国際線は上海・ソウル（仁川）線の2路線週6便となっている。利用者数は平成27年度実績で3,108千人（国内線3,002千人、国際線（チャーター便含む）50千人、乳幼児56千人）であった。

また、離島の空港は、五島つばき空港と対馬やまねこ空港は長崎と福岡、壱岐空港は長崎と結ばれており、平成27年度の利用者数は403千人（乳幼児は含まない）で、生活路線としての役割を果たしている。

路線数及び便数は平成28年12月1日現在の数字。

（県新幹線・総合交通対策課）